

-令和4年度 看護学部卒業時アンケート-

令和4(2022)年度 4年生からの評価に基づくカリキュラム評価結果

【分析目的】

1. カリキュラムの適切性を評価し、次期カリキュラムに活かす。
2. 学生の成長実感・満足度を把握し、教育の質改善に活かす。

【データ概要】

1. 4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート

	実施日	回答方法	回答者数	(%)
R1	R2.3.2~3.9	LMS	98/105	(93.3)
R2	R3.4.14~4.30	LINE* & MS Forms	61/87	(70.1)
R3	R4.3.2~3.4	MS Forms	89/103	(86.4)
R4	R5.2.1~3.31	MS Forms	59/95	(62.1)

*R2年度は卒業時に実施できなかったため、卒後に学年LINEにて周知し、Web上で実施した。

2. GPS-Academic 在校生アンケート(カリキュラム評価)

4年次集団経年比較

	GPS-Academic 2019 (4年次)	GPS-Academic 2020 (4年次)	GPS-Academic 2021 (4年次)	GPS-Academic 2022 (4年次)
受検者	91/105名(86.7%)	87/87名(100%)	102/103名(99.0%)	91/95名(95.8%)
日時	2020.3.2~2020.3.17	2021.3.1~2021.3.3	2021.12.7~2021.12.14	2022.12.5~2022.12.12
場所	自宅	PC教室	PC教室	PC教室

【分析方法】

下記のとおり、評価の視点に沿って、学生からの評価をもとに分析した。

評価の視点	評価データ
1. カリキュラムの構成、科目の学年配置は適切か	4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート： 学習内容、教育方法、成績評価、科目の学年配置、機会・環境の提供、学習量、主体的学習等に関する21項目
2. 授業は学士力・社会人力等の能力獲得に役立ったか	GPS-Academic 授業の役立ち度： 論理的・批判的思考力、数量的・統計的スキル、情報リテラシー、問題解決力、チームワーク・リーダーシップ、プレゼンテーションスキル、ディスカッションスキル、コミュニケーションスキル、文章作成力、語学力
3. 主体的に学べるカリキュラムか	GPS-Academic 授業評価： 単位修得の考え方、授業レベル、課題量、教員との距離、自由な発言や議論の場、周囲の学生の意識 GPS-Academic 学びへの取り組み： 予習・復習、グループワーク、ノートテイキング、学習不明点への対処、授業外の学び
4. 学生自らが成長を実感し、大学教育・学生生活に満足しているか。	GPS-Academic 成長実感 GPS-Academic 学部のお勧め度 GPS-Academic 大学教育・学生生活への満足度

【分析結果の概要】

1. カリキュラムの構成、科目の学年配置は適切か。

『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』結果では、学習内容、教育方法、成績評価、科目の学年配置、機会・環境の提供、学習量、主体的学習等に関する21の評価項目中20項目で平均3.0以上（4点満点）であり、学生からの評価は概ね良好であった。◆ p.3-4

2. 授業は学士力・社会人力等の能力獲得に役立ったか。

『語学力』以外の『論理的・批判的思考力』『数量的・統計的スキル』『情報リテラシー』『問題解決力』『チームワーク・リーダーシップ』『プレゼンテーションスキル』『ディスカッションスキル』『コミュニケーションスキル』『文章作成力』については8割以上が「とても/まあ役に立っている」と回答し、概ね役立ったと評価できる。◆ p.5

3. 主体的に学べるカリキュラムか。

学生からの授業評価では『教員との距離が近い』『周囲の学生の意識が高い』『自由な発言や議論の場が多い』と主体的に学べる学習環境につながる評価がある一方、『課題が多く、負荷が高すぎる』『授業のレベルが高すぎる』という評価もある。◆ p.6

学びへの取り組みについては、授業への積極的参加やノートテイキングといった授業中の取り組みの実施度が8~9割と高い一方、予習・復習や授業外の自主学習、教員への質問・相談といった授業外での取り組みの実施度は5~7割である。◆ p.7

課題量や授業レベル、授業外での学びの取り組みについては、検討が必要である。

4. 学生自らが成長を実感し、大学教育・学生生活に満足しているか。

成長実感については、過去4年間、9割以上の学生が成長を「強く/やや実感する」と回答し、学部のお勧め度についても、約8割の学生が「とても/まあ勧めたい」と回答している。大学教育・学生生活に対する満足度は『授業内容』『カリキュラム』『友人との人間関係』『教員』『就職・進路支援』について約9割の学生が「とても/まあ満足している」と回答した一方、『学生窓口対応』については約7割、『語学教育・語学力向上支援』『キャンパス環境・学生サービス』『留学・国際交流支援』については5~6割に留まり、検討が必要である。◆ p.8-9

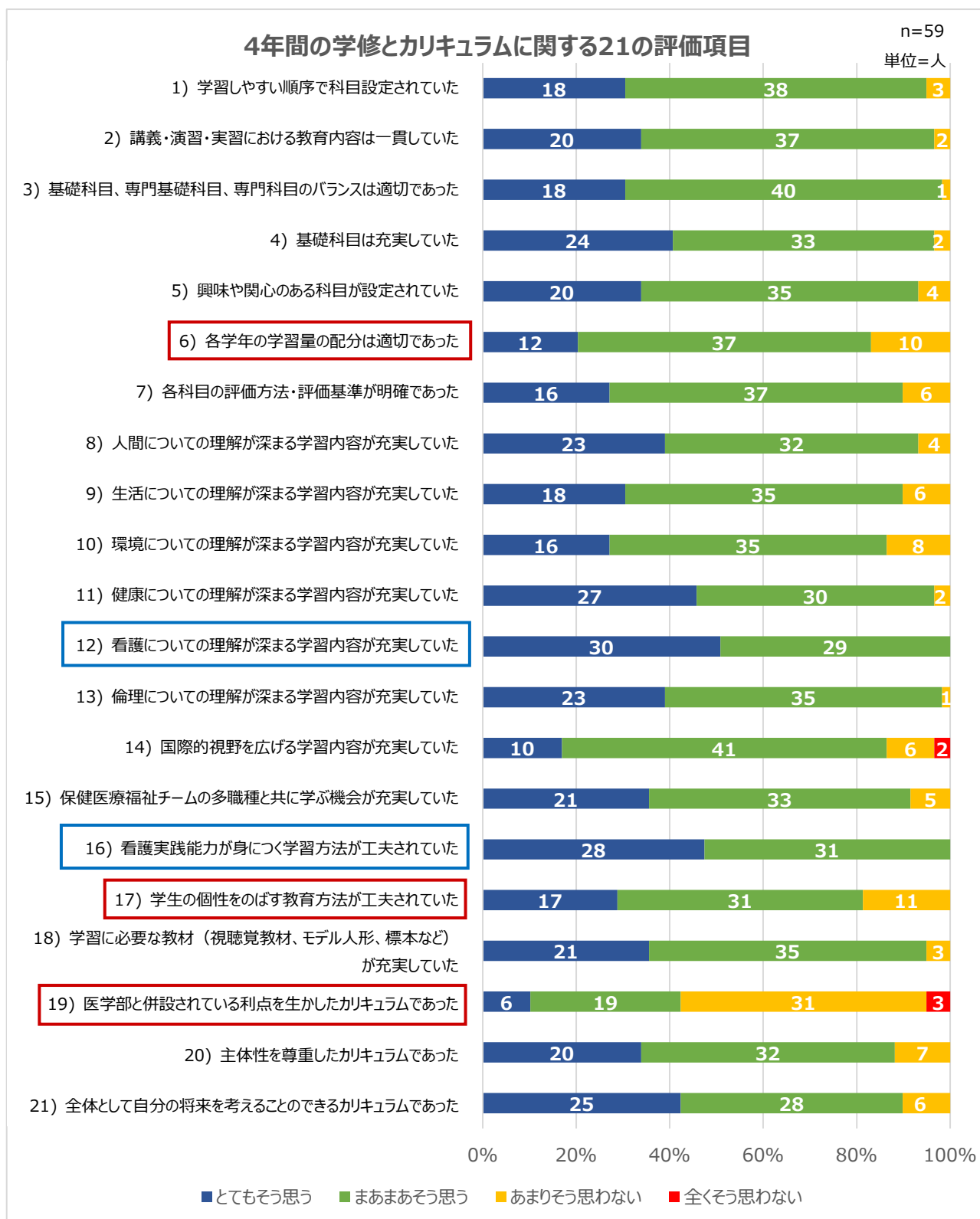
【改善の余地がある事項】

- ①「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」は6割弱が「あまり/全くそう思わない」と回答し、次いで「学生の個性をのばす教育方法が工夫されていた」「各学年の学習量の配分は適切であった」について2割弱の学生が「あまり/全くそう思わない」と回答した。◆ p.3
- ②語学力については6割弱が授業が「まったく/あまり役に立っていない」と回答した。◆ p.5
- ③『課題が多く、負荷が高すぎる』『授業のレベルが高すぎる』と回答した学生が多く、『周囲の学生の意識が高い』『授業のレベルが高すぎる』と感じる学生が増加傾向にある。また、授業外での取り組みの実施度は5~7割である。◆ p.6-7
- ④満足度では、『語学教育・語学力向上支援』『キャンパス環境・学生サービス』『留学・国際交流支援』について「とても/まあ満足している」と回答した学生は5~6割に留まっている。◆ p.9

【結果】

1. R4(2022)年度『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』結果

学生評価が高い項目は「看護についての理解が深まる学習内容が充実していた」「看護実践能力が身につく学習方法が工夫されていた」であった。一方、「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」は6割弱が「あまり/全くそう思わない」と回答し、次いで「学生の個性をのばす教育方法が工夫されていた」「各学年の学習量の配分は適切であった」について2割弱の学生が「あまり/全くそう思わない」と回答した。

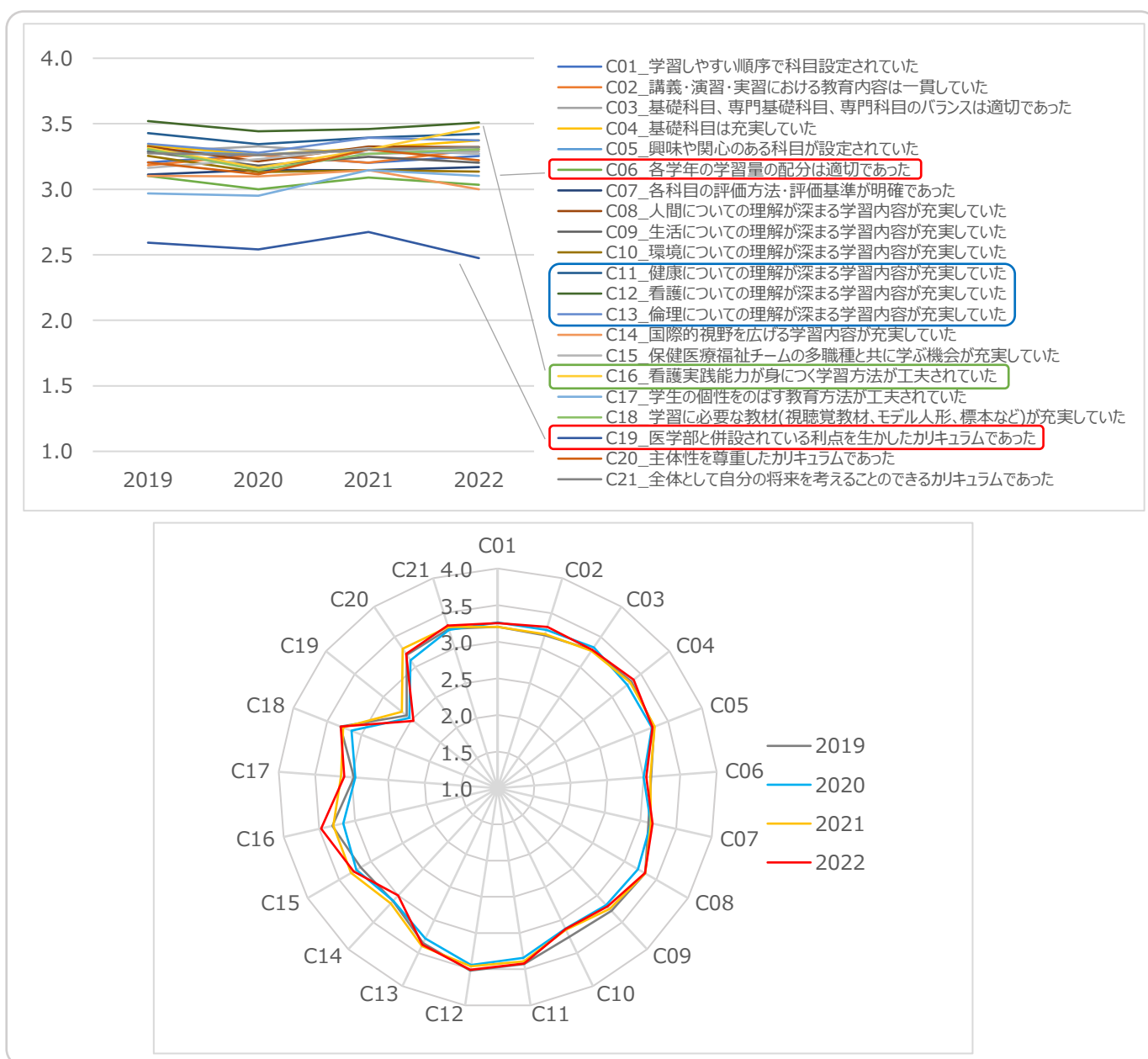


R1-R4(2019-2022)年度『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』経年比較結果

過去4年間を比較すると、各項目の平均点は全体的に微増しており、「看護/健康/倫理についての理解が深まる学習内容が充実していた」の評価が高く、「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」「各学年の学習量の配分は適切であった」の評価が低い傾向が継続している。今年度は「看護実践能力が身につく学習方法が工夫されていた」の評価が例年より高い結果であった。

「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」以外の項目は平均3.0を超えており、学生からのカリキュラム評価としては概ね良好であった。

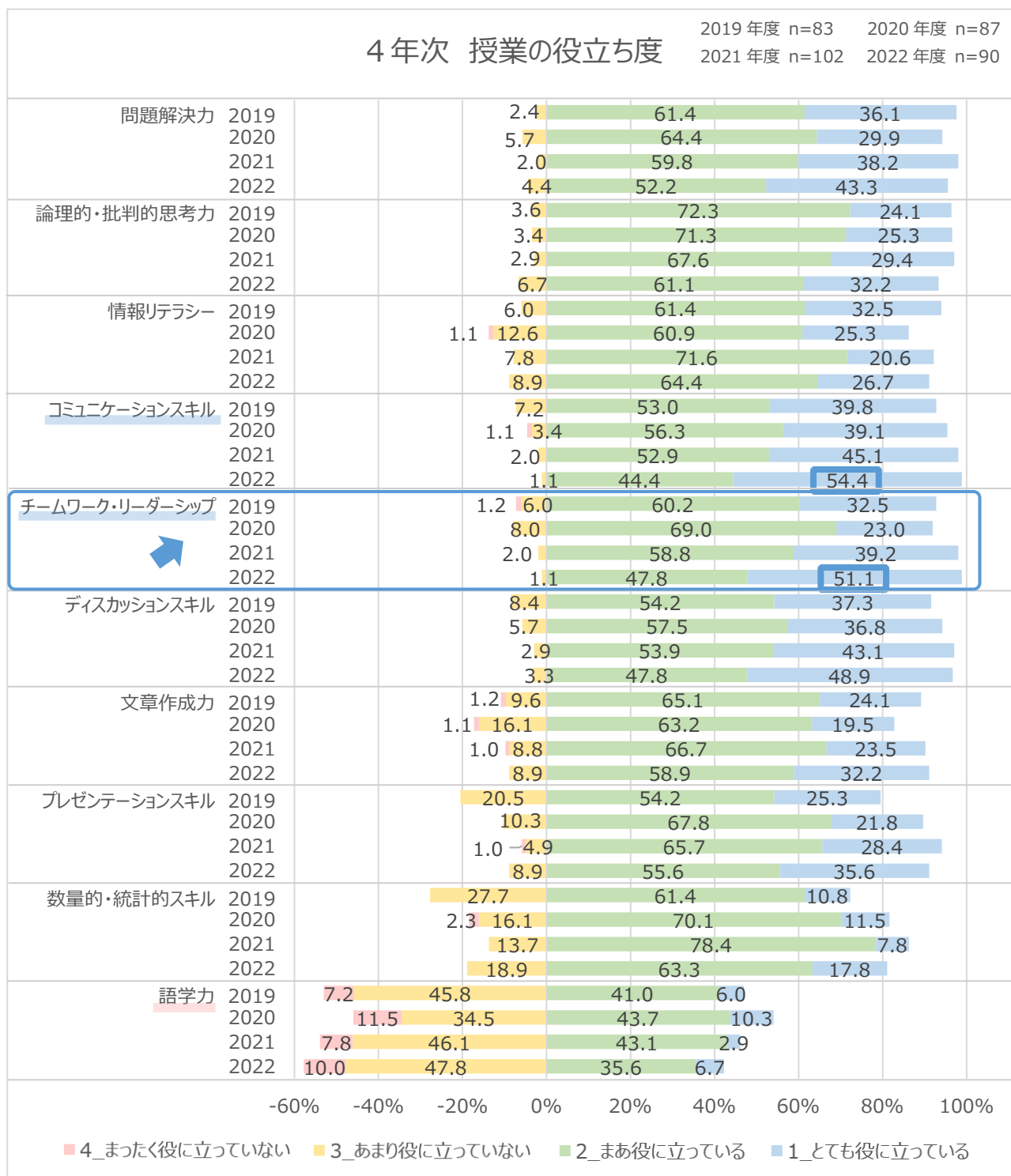
項目別カリキュラム評価の平均点の推移（卒業年度：2019年～2022年）



2. R1-R4(2019-2022)年度 4年次 GPS-Academic 《カリキュラム評価》 経年比較結果

1) 授業の役立ち度

※項目は2019年度の高評価順

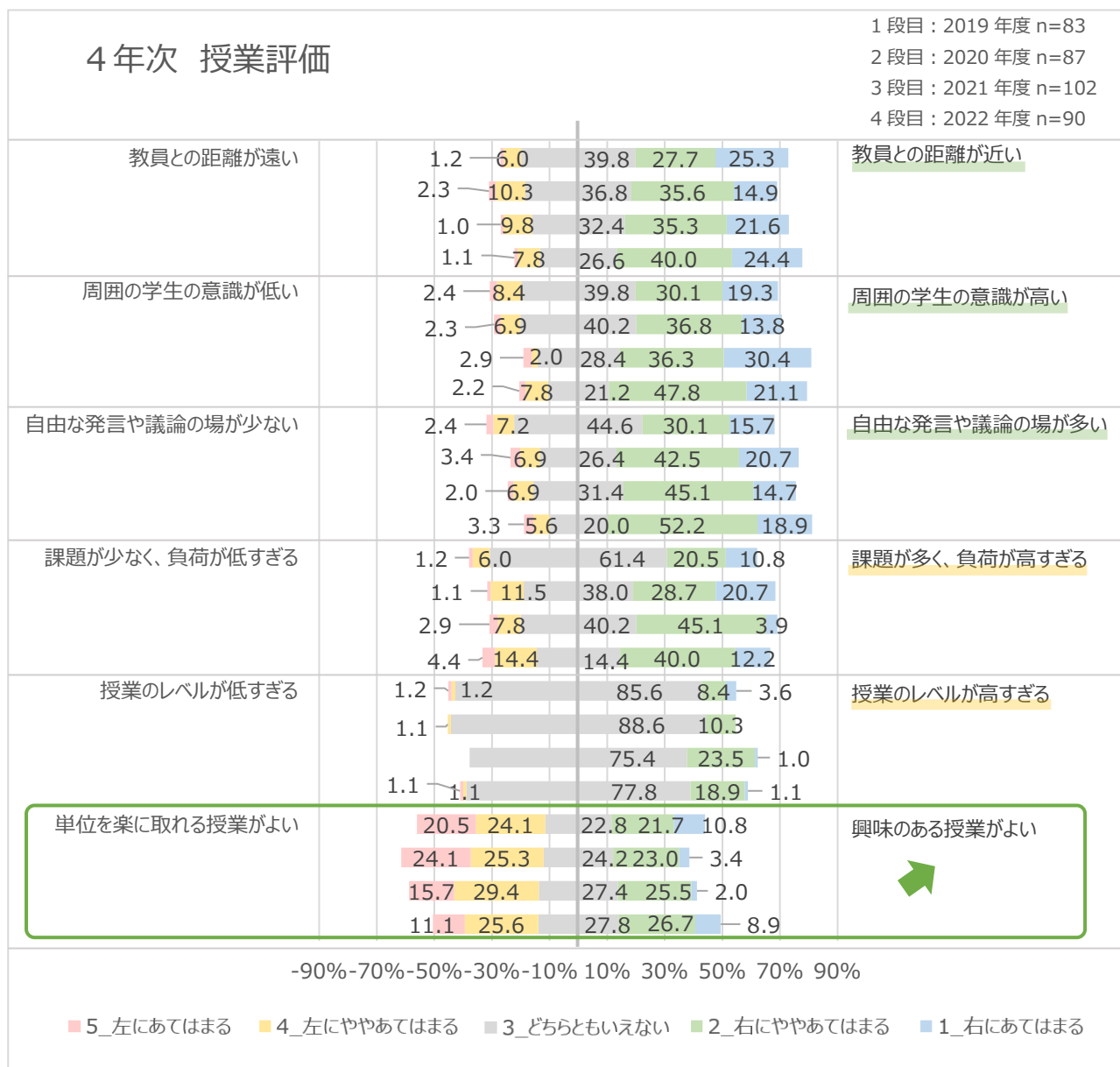


授業の役立ち度については、ほぼ全ての項目で8割以上が「とても/まあ役に立っている」と回答したが、『語学力』のみ6割弱が「まったく/あまり役に立っていない」と回答した。また、『コミュニケーションスキル(54.4%)』と『チームワーク・リーダーシップ (51.1%)』では、約半数が「とても役に立っている」と回答した。

経年変化では、各項目で大きな変化は見られないが、『チームワーク・リーダーシップ』について「とても役に立っている」と回答した割合が増加傾向 (32.5%→23.0%→39.2%→51.1%) であった。

2) 授業評価

※項目は2019年度の高評価順



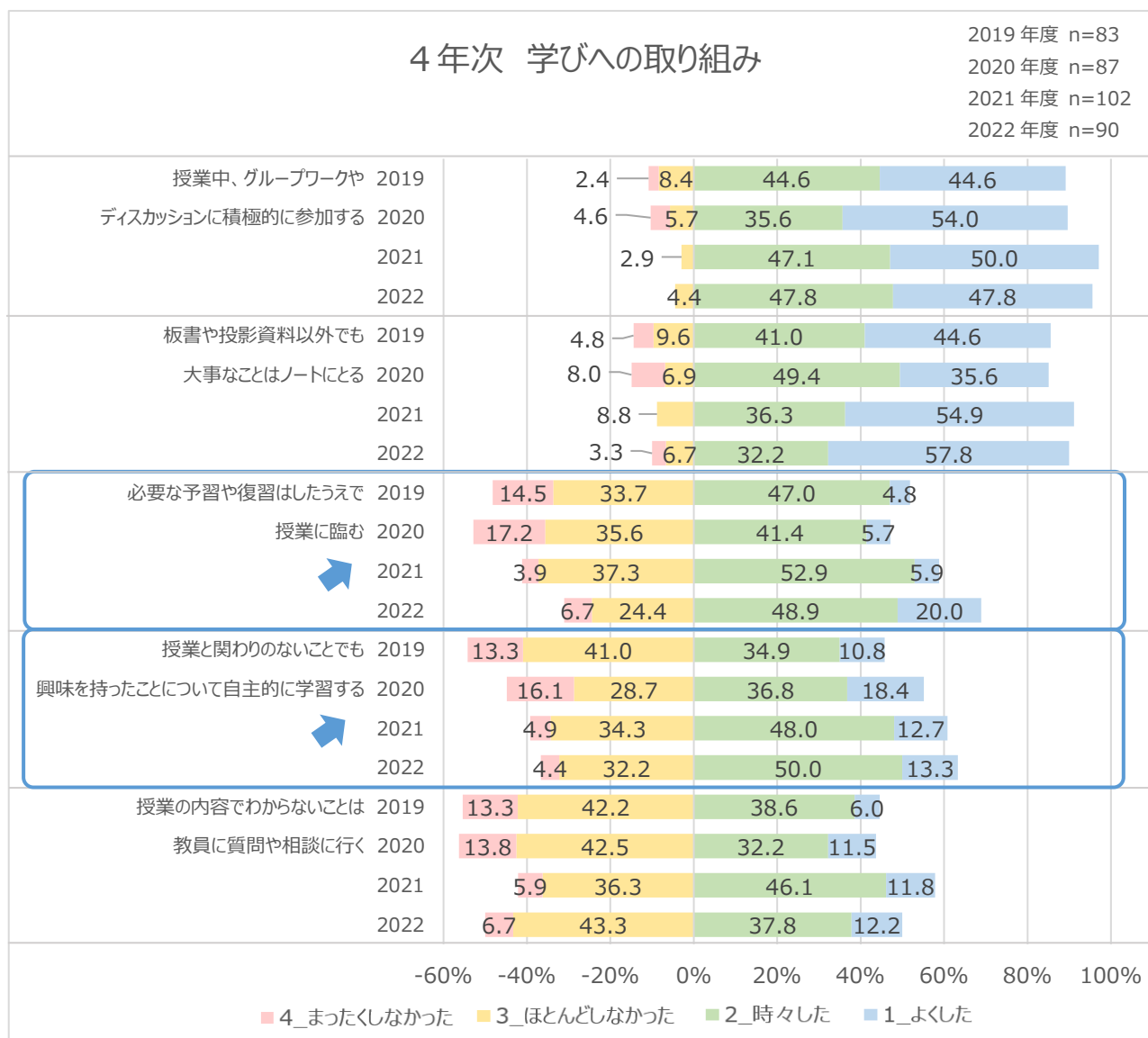
授業評価の全体的な傾向として、『教員との距離が近い』『周囲の学生の意識が高い』『自由な発言や議論の場が多い』『課題が多く、負荷が高すぎる』『授業のレベルが高すぎる』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が多かった。

経年変化では、各項目で大きな変化は見られないが、これまで『単位を楽に取れる授業がよい』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する学生の方が『興味のある授業がよい』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する学生より多い傾向（2019：44.6%-32.5%、2020：49.4%-26.4%、2021：45.1%-27.5%）が見られたが、今年度は『単位を楽に取れる授業がよい』が36.7%、『興味のある授業がよい』が35.6%とほぼ変わらない結果であった。また、『周囲の学生の意識が高い』について「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が増加傾向（49.4%→50.6%→66.7%→68.9%）であった。

学生からの評価として、『教員との距離が近い』『周囲の学生の意識が高い』『自由な発言や議論の場が多い』との好評価がある一方、『課題が多く、負荷が高すぎる』『授業のレベルが高すぎる』という評価もあり、カリキュラム検討が必要である。また、Covid-19感染対策による授業形態の変更の影響もあり得るが、『周囲の学生の意識が高い』と感じる学生が増加傾向にあることも若干の懸念事項である。

3) 学びへの取り組み

※項目は2019年度の高評価順

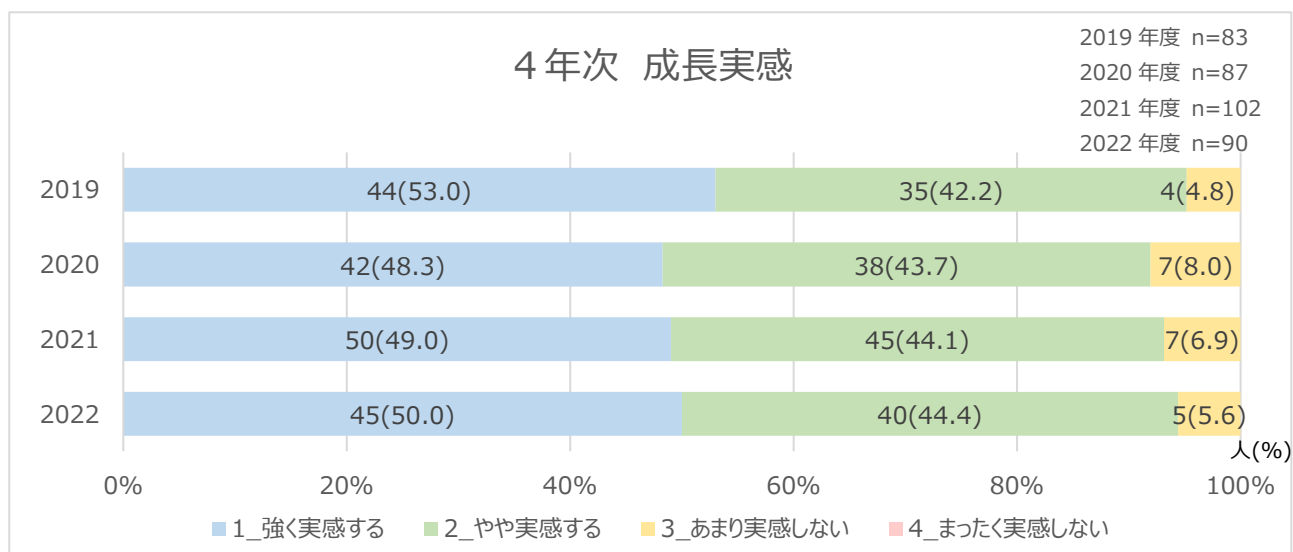


学びへの取り組みでは、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」ことについて「よく/時々した」と回答した学生が8~9割程度であった。一方、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」「授業と関わりのないことでも興味を持ったことについて自主的に学習する」「授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く」ことについて「よく/時々した」と回答した学生は5~7割程度であった。

経年変化では、『必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む』について、「よくした」と回答した学生が前年度に比べて約15%増えており、『授業と関わりのないことでも興味を持ったことについて自主的に学習する』について「よく/時々した」と回答した割合が増加傾向(45.7%→55.2%→60.7%→63.3%)であった。

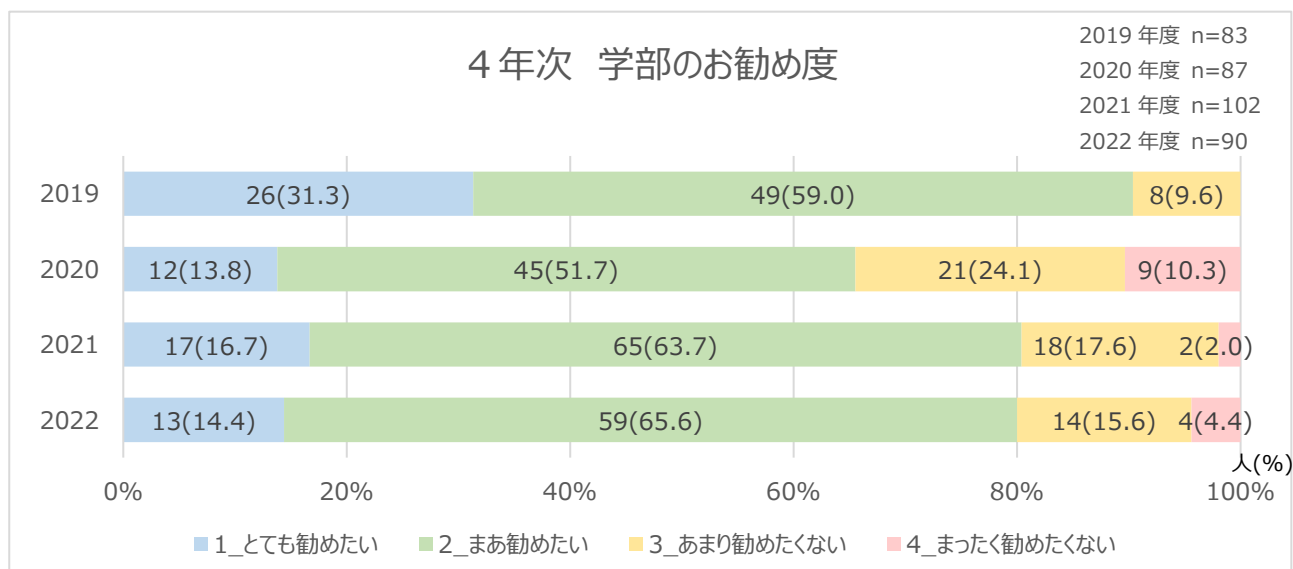
授業への積極的参加やノートテイキングといった授業中の取り組みの実施度が8~9割と高い一方、予習・復習や授業外の自主学習、教員への質問・相談といった授業外での取り組みの実施度は5~7割である。経年変化では、予習・復習や授業外の自主学習といった授業外での取り組みの実施度が改善傾向にあるため、次期カリキュラム評価の結果も踏まえ、カリキュラムを検討していく必要がある。

4) 成長実感



過去4年間、9割以上が成長を「強く/やや実感する」と回答しており、半数が「強く実感する」と回答している。

5) 学部のお勧め度

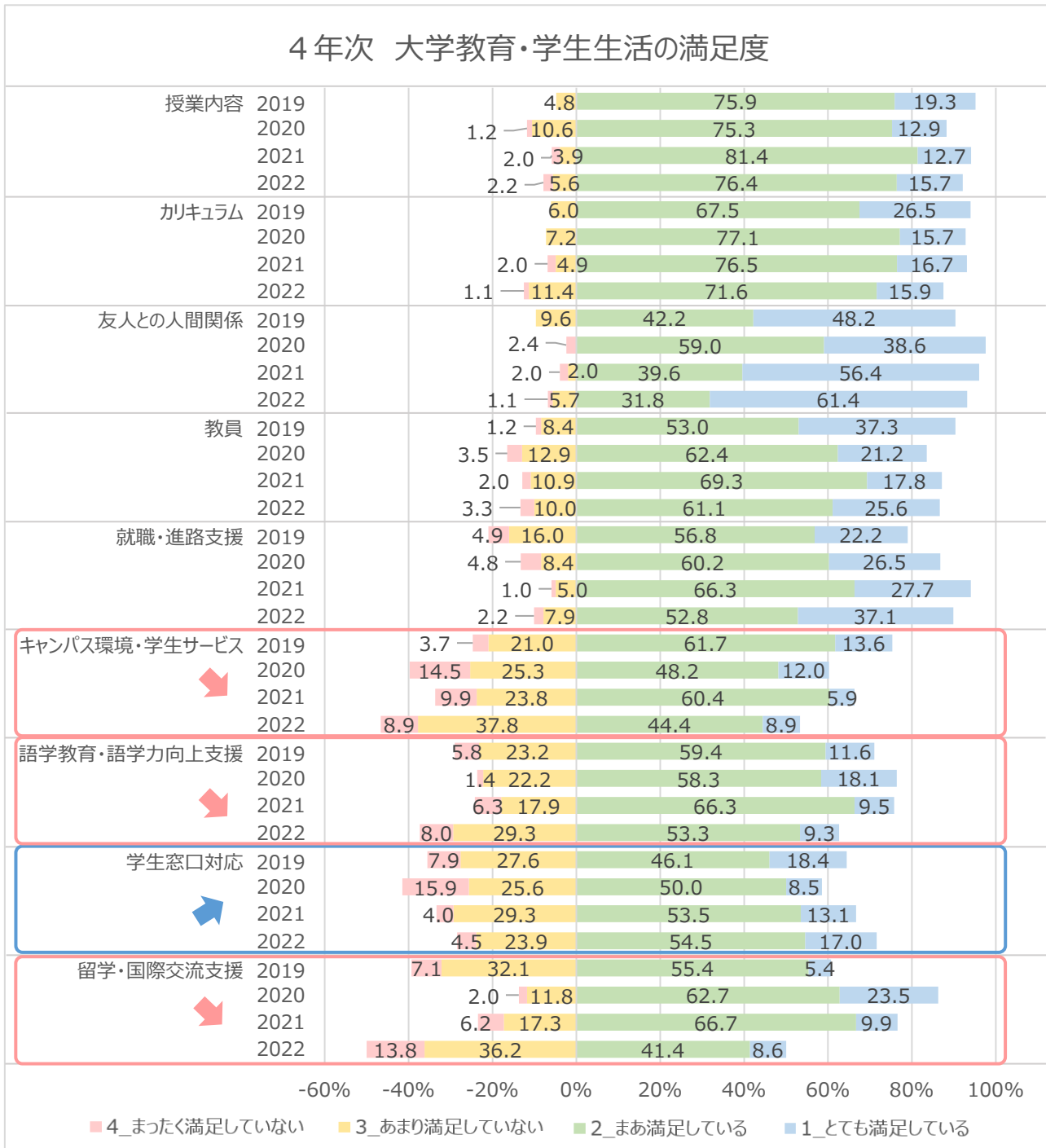


今年度は約8割が学部を「とても/まあ勧めたい」と回答し、約2割が「まったく/あまり勧めたくない」と回答した。「まったく勧めたくない」と回答した学生も4名おり、注意が必要である。

※項目は2019年度の高評価順。

6) 大学教育・学生生活の満足度

※「5_わからない・該当しない」は集計から除外した。



大学教育・学生生活については、『授業内容』『カリキュラム』『友人との人間関係』『教員』『就職・進路支援』について約9割の学生が「とても/まあ満足している」と回答した。一方、『学生窓口対応』については約7割、『語学教育・語学力向上支援』『キャンパス環境・学生サービス』『留学・国際交流支援』については「とても/まあ満足している」と回答した学生は5~6割に留まっている。

経年変化では、「とても/まあ満足している」と回答した割合が『学生窓口対応』で若干増加傾向(64.5%→58.5%→66.6%→71.5%)だが、『留学・国際交流支援』では76.6%→50.0%、『キャンパス環境・学生サービス』では66.3%→53.3%、『語学教育・語学力向上支援』では75.8%→62.6%と、前年度に比べ、減少傾向であった。Covid-19感染対策による様々な制限の影響もあると考えられるが、正課外活動やキャンパス環境については、今後の検討課題である。